

4 地区小体連のあゆみ

[1] 宮崎市小学校体育連盟

I 年間事業

予 定 日	曜	事 業 名	主 な 内 容	会 場 (予 定)	開始予定時刻
4 月 2 3 日	金	常任理事会	第 1 回理事会内容検討 研究内容、研究組織検討	生目台東小学校	15:00～
5 月 6 日 (教科等主任会)	木	教科主任会 第 1 回理事会	役員選出 事業計画	中央公民館	15:00～
5 月 1 2 日	火	学体研関係	地区実行委員会 (会長・理事長・研究部長・授業者等)		
5 月 2 1 日	金	常任理事会	泳力向上大会 (仮名) 検討 研究推進	生目台東小学校	14:00～
6 月 4 日	金	第 2 回理事会 (体育主任会)	泳力向上大会 (仮名) 検討 学体研の役割分担と確認 研究推進 (指導案検討等)	中央公民館	14:00～
7 月 1 3 日	木	学体研関係	地区実行委員会 (合同部会) (会長・理事長・研究部長・授業者、 運営に関わる班長 等)		
水泳指導期間中		水泳記録測定	泳力指導と泳力調査	各学校	
8 月上旬	水	泳力調査の提出〆切り		事業部へ	
7 月 3 0 日	金	令和 3 年度小学校体育地区別講習会		県総合運動公園 ひなた武道館	9:30～
8 月 2 4 日	火	学体研関係	研究部会、地区運営委員会 (会長・理事長・研究部長・授業者等)		
9 月 2 1 日	木	学体研関係	地区実行委員会 (会長・理事長・研究部長・授業者等)		
1 0 月 8 日	木	宮崎県学校体育研究発表大会事前研究会		都城市立高崎小学校 明和小学校	
1 0 月 2 8 日	木	学体研関係	実行委員会、学体研前日準備	都城市立高崎小学校 明和小学校	
1 0 月 2 9 日	金	宮崎県学校体育研究発表大会		都城市立高崎小学校 明和小学校	
1 月 2 8 日	金	常任理事会	年間反省・次年度に向けて	生目台東小学校	14:00～
2 月 1 8 日	金	第 3 回理事会 (体育主任会)	年間事業報告・研究部反省 事業部反省・次年度の計画	中央公民館	14:00～

II 事業部のあゆみ

1 水泳競技の部

- (1) 大会名
- (2) 実施期日
- (3) 会 場
- (4) 参加児童
- (5) 実施種目
- (6) 実施方法

第 2 回宮崎市小学校泳力向上大会 (記録会)

令和 3 年 6 月～7 月 (水泳指導期間中)

宮崎市内各学校

宮崎市内各小学校 5、6 年生全児童 (7 8 5 3 名)

○ 2 5 m (自由形、平泳ぎ) ○ 5 0 m (自由形、平泳ぎ)

○ 距離の部

- ・ クロール、平泳ぎで 2 5 m、5 0 m を泳げた児童の割合
- ・ 5 年の部、6 年の部で割合上位の学校に泳力大賞を授与
- ・ 前年と比べて泳げた児童の割合が飛躍的に伸びた学校に授与する (今年度から)。

○ タイムの部

- ・ 発展型の学習として、各種目男女 2 名ずつ、タイム測定し小体連が集約
- ・ 1 0 0 分の 1 秒以下を切り上げて、1 0 分の 1 秒までの記録を提出する

(7) 反 省

本年度は、上記のような計画での実施を検討していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、水泳学習の実施の有無の判断が各学校に任されることとなった。その結果、約半数以上の学校が昨年度に引き続き水泳指導自体を中止した。そのため、タイムの部の記録の集約は行わないこととした。また、距離の部については、水泳指導を実施し、記録の提出ができた学校には記録賞を配付した。

大会の実施はもとより、今年度及び昨年度履修できなかった学習を確実に次年度履修できるよう、周知徹底を図りつつ、来年度こそ一昨年度より始まったこの形式での大会の実施を児童にとって有意義なものにしていきたい。

2 陸上競技の部

⇒新型コロナウイルス感染拡大防止の為、一堂に会しての大会は行わず、各学校の実態に応じ、可能な範囲で選手種目を実施。また、選手種目にエントリーされなかった児童については以下に示すルールのもと各学校にて一般種目を1種目実施することとした。

(1) 選手種目

① 種目

- 「100m走」「50mハードル走」「走り幅跳び」「走り高跳び」「ソフトボール投げ」「男子1000m走」「女子800m走」

② ルール

- 基本的には一斉開催の時と同じルールだが、各学校の実態があるため、100m走は必ずしも直線でもなくてもよいこととした。
- 走種目については、県標準記録認定の関係上2人で測定し、遅い方の記録を採用することとした。

(2) 一般種目

① 種目

- 「80m走」か「50mハードル走」の2種目から、各学校でいずれか1種目を選択して実施。

② ルール（共通実践事項）

- 「80m走」
 - ・ スタンディングスタートで行う。
 - ・ 距離は80mとする。
- 「50mハードル走」
 - ・ スタンディングスタートで行う。
 - ・ ハードルの台数は5台で行う。
 - ・ 距離は50mとする。

③ 表彰

- 各学校で記録を測定した場合、記録賞を配付する。
- 各学校で記録の測定を行わなかった場合、参加賞を配付する。

(3) 反 省

本年度は、一堂に会しての陸上大会は実施しなかったものの、各学校で一般種目に加え、選手種目の実施ができたことは収穫であった。しかしながら、各学校によって実施方法に差があり、6年生児童の意欲の差にも繋がると思われる。そこで次年度は、今年度の各学校での実施方法など情報を共有し、できる限りどの学校の6年生児童も意欲を持てる記録会にしていきたい。

Ⅲ 研究部のあゆみ

1 研究主題・副題

**生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための
資質・能力の基礎を育む体育科学学習の在り方
～主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業の創造と展開～**

2 研究の基本方針

- (1) 育成を目指す資質・能力の明確化
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進
- (3) 体育科学学習におけるカリキュラム・マネジメントの推進

3 研究の内容

「主体的・対話的で深い学びを実現する授業の在り方」

- (1) カリキュラム・マネジメントの工夫
 - 「いつ」「何を」「どのように」教えるかを明確にした指導と評価の計画（ゴールイメージ）の作成
 - ※ 指導と評価の計画を作成し、一人一実践を行う。

4 研究の見通し

年度	2年度	3年度	4年度	5年度
宮崎県	『研究主題』 生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための 資質・能力の基礎を育む体育科学学習の在り方			新研究主題
学体研	九州学体研 宮崎大会 (体づくり)	都城・三股 宮崎大会 (ゴール型：タグラグビー)	日向・東臼杵 宮崎大会 (ゴール型：タグラグビー)	日南・串間 宮崎大会 (仮)ネット型
宮崎市	体づくり	ゴール型：タグラグビー（鬼遊び）		ネット型
		指導と評価の計画	スキルアップテキストの作成	

5 研究の組織

- ゴール型「鬼遊び、タグラグビー、フラッグフットボール」

研 究 班	具 体 的 な 取 組
低学年部	「鬼遊び」における指導と評価の計画の作成
中学年部	「タグラグビー」「フラッグフットボール」における指導と評価 の計画の作成
5年	
6年	

6 研究の実際

- (1) カリキュラム・マネジメントの工夫について

主体的・対話的で深い学びを実現するためには、児童が「わかる」と「できる」を実感しながら学習を進めていくことが大切であり、そのためには、技能習得の過程を通して、思考力、判断力、表現力等を働かせて課題を解決する過程が重要となる。このプロセスを具現化させるためには、自己の課題を見付けることが必要不可欠であり、易しい課題から始め、少しずつ難しい運動や課題に取り組む中で、「もっと上手くなるためのポイントは何か」「もっと上手くなるためには、何が課題なのか」など、学習の各段階に即した、課題への気付きが求められる。

このようなプロセスを保証するために、学習課題を明確にした「めあて」を立てたり、スモールス

テップでの学びを実感させたりすることのできる「指導と評価の計画」を作成していきたいと考えた。さらに、児童の学びをより確かなものにするために、「いつ」「何を」「どのように学ぶのか」「何が身に付いたのか」の視点で計画を立てることで、1単位時間で学ばせる事柄を明確にし、系統立てて指導していくことができるようにした。

右の表1は、第4学年「タグラグビー」の指導と評価の計画の一部である。本時のめあてを「ゲーム中にボールを持っていない時、どこにいるとよいか考えよう」とし、ボールを持っていない時の「位置取り」に焦点を当てて学習を進めていくことが分かる。試しのゲーム1では、課題に対して、解決方法を考えながらゲームを行う。その後、試しのゲームで分かったことを全員で共有し、スキルアップ1の「3人で移動しながらのパス」で、「ボールを持たない時の位置取り」を身に付けることができるようにしている。そして、次のゲームで実際に「ボールを持たない時の動き」ができるかどうかを試すことのできる指導過程となっている。

表2では、「何が身に付いたか」を見取ることができる。ボールを持たない動きとして、「ボールをキャッチしやすい位置の理解」「ボールに体を向け、ボールをキャッチ」する等、身に付ける指導事項を記載することで、具体的なゴールイメージを持って指導できるようにした。また、授業後に、「児童の様子やゲームの様相」について、記述しておくことで、児童やゲームがどのような過程を経て変容したのかを理解（イメージ）できるようにした。

このような指導と評価の指導計画を作成することで、指導経験の浅い先生でも、授業の要点や授業の組み立て方を理解し、見通しをもって授業を進めていくことができるようになる。

6 研究の成果と課題

(1) 成果

- 「いつ」「何を」「どのように」教えるかを明確にした指導と評価の計画を作成したことで、1単位時間で学ばせる事柄を明確にし、系統立てて指導していくことができた。
- 児童の様子やゲームの様相について記述しておくことで、指導経験の浅い先生でも見通しをもって授業を行うことができる。

(2) 課題

- 低、中、高学年の指導内容のつながりや違いの分かる指導と評価の計画を作成していく必要がある。

【表1】

知味方にパスをしたり、キャッチをしたりすること ○キャッチの構え ○パス（ボールの持ち方） パスの仕方	知味方にパスをしたり、キャッチをしたりすること 素早い移動 ○キャッチの構え ○パス（ボールの持ち方） パスの仕方 ○ボールを持たないときの動き ゲーム中にボールを持っていないとき、どこにいるとよいか考えよう。
「何を学ぶのか？」 課題が明確になるような「めあて」	1 準備、あいさつ、準備運動・生目台東サ 2 基礎感覚を高める運動 ①円陣パス (20秒で何回パスできるか) ②走りながら4～5人のラインパス (スタートのボールに位置は固定し、スタートするポジションは交代)
2 めあての確認 3 基礎感覚を高める運動 ①円陣パス (20秒で何回パスできるか) ②走りながら4～5人のラ	3 めあての再確認 4 試しのゲーム ・4タグ 攻守交替 ・ノックオンなし ・3分間2セット×兄弟チーム
「どのように学ぶのか？」 ○指導過程 ○活動内容 ○ルール など	5 スキルアップ1 ①3人で移動しながらのパス 6 ゲーム ・4タグ 攻守交替 ・ノックオンなし ・3分間1セット×兄弟チーム

【表2】

○ボール操作(味方のとりやすいパス)を理解する。 ・山なりのパス ・パスする方向へ体を向ける ○走りながらパスを交換すること	○ボールを持たない時の動き ・ボールをキャッチしやすい位置を理解する。 ・投げられたボールに対応して素早く動く。 ・ボールに体を向け、ボールをキャッチする。 ○その他 ・パスする相手の名前を呼んだり、ボールを受ける際に返事をしたりする。
「何が身に付いたか？」 (ゴールイメージ)	○円陣パスでは、パスの距離はグループで様々であったが、20秒間で20回程度パス交換ができた。 ○ラインパスは、走りながらのボール操作に困難を感じている児童が数名見られた。 ○オフサイドポジションでプレーする児童は、本年度転入生以外には見られない。 ○走っているコースがどうしてもゴールに近い(寄って)しまいがち
「児童の様子やゲームの様相」 (次年度に向けての課題、感想)	○ゲームを行ったが、ルールを忘れていたり、ボールをもたないときの動き方を忘れていたりした。 ○ゲーム中、ボール保持者がタグされるのが嫌で、後ろに下がる動きがあったので、授業最後に指導した。 ○準備側のタグ後に下がる動きも忘れていて、次の時間に指導が必要。